

トホクのトウガン栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4年あける

1. 作物特性

トウガンは暑さに強く生育旺盛な作物です。比較的病気にも強いので栽培は比較的簡単です。つるを伸ばして栽培しますので少し広い面積が必要ですが、ミニトウガンなら立体栽培も可能です。トウガン栽培で最も難しいことは発芽で、通常十分な温度があっても10日位かかりますので、育苗中は注意が必要です。また畑に肥料分が残っている場合や、多めに肥料を施したりすると花が咲いても果実が着かないつるボケとなるので注意しましょう。

2. 畑の準備

ウリ科野菜を3～4年作っていない畑を選びましょう。



3. タネまき

直接畑にタネをまくこともできますが、通常ポットにまいて苗を育てます。直径10～12cmのポットで、深さ1.5cm位の深さにタネをまきます。発芽適温は地面の温度で25～30℃ですから、気温が充分でない場合はビニールトンネルなどを使って保温します。発芽まで10日位かかるので発芽までは極端に乾燥しないように管理しました。本葉が出たら間引きをして、ポットに1株にします。育苗中に肥料が切れることの無いように薄めの液体肥料をやると良いでしょう。



4. 植えつけ

つるを伸ばす場所を確保してうねをたて、マルチをするとよいでしょう。本葉3～4枚の頃に植えつけます。深植えを避け、根鉢をくずさないように注意します。

天気がよく、風の弱い日に植え付け、その後しっかりと水をやりましょう。植えつけた後、遅霜の恐れがあるときはホットキャップなどを利用します。



5. 栽培管理・収穫

最初に伸びてきたつるを5～6枚目で芯を摘み、脇から出るつる（子づる）を数本伸ばします。つるを伸ばしたい方向に向けてやり、マルチから出



る前にわらなどを敷いておきましょう。子づるの8節目までに咲いた雌花は大きくなりません。そのままにしておくと株全体も弱るので早めに摘み取ります。

1番目の果実が着果したら1株あたり化成肥料50gをつる先に追肥します。梅雨明け時など日差しが強い場合、果実の上に新聞紙などを載せて日よけにします。生育初期にはアブラムシが、果実が成りだす頃からはうどんこ病が発生しやすくなります。農薬などを適切に使って防除します。



1番目の果実が着果した後はつるの発生も弱まるので、それ以降発生する孫づるは摘除せずそのままにします。花が咲いてから25日頃から収穫することができます。冬まで保存する場合は40日以上置いて、果実表面のうぶ毛が落ちた完熟果実を収穫します。

地域/月	まく時期					収かく期						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地				●	●			■	■	■		
中間地				●	●			■	■	■		
暖地			●	●	●			■	■	■		